

牡丹と芍薬

牡丹と芍薬は、どちらも古くから東洋の人々や我が国で愛好されてきた花木です。

特に牡丹は古来より中国では、国華として詩歌に詠われ、又有名な牡丹園も数多く、種々改良されて来ました。この兩者とも植物学的には「うまのあしがた科」に属し、春その目をおおうばかりの華容は何物にもたとえ様のない事は、今更いうまでもありません。更に良い

ことには、兩者共牡丹は灌木、芍薬は草木との差こそありますが、耐寒力強く相当に寒い地方でも安心して作ることが出来ます。今牡丹に例をとりますと、その原産地が中国の西北部から雲南省の山岳地帯です。か

ら、我が国でもその生育は関西、北陸、関東、東北、北海道等が盛んで、中でも北部地帯は、病気の発生も少なく栽培は容易であるといわれており、事実北海道の北見には古くから大きな牡丹園がある事が、この間の事情を良く説明しております。

又芍薬も寒さに大変強く、札幌付近は勿論相当北の方でも十分に生育する事は、い

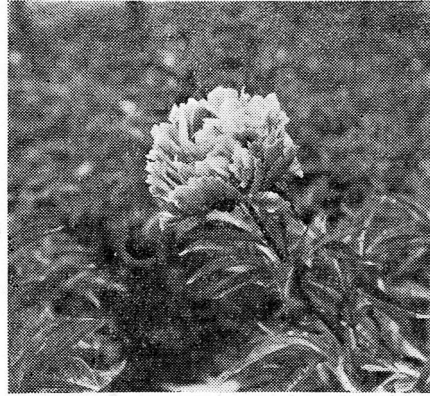
う迄ありません。

次に簡単に栽培方法の概要を説明いたします。

定植期は、秋九月末から十月上旬頃が適期です。秋ですと多少遅れても余り差し支えありませんが、春の定植は避けるべきで、特に芍薬の春植えは禁物です。土地の状態は、余り乾燥しがちのところは避けた方が

良いでしょう。

芍薬（ペルリオブ）



植込み方法は、牡丹は植穴を掘り、そこに基肥として腐熟

堆肥を十分に入れ、その上に土を軽くかけて植え込みます。植込みの深さは、接目がかくれる位が適当です。植込みが終了したら水をかけて土を落着かせて下さい。芍薬は、少々

浅植えとして植え込みます。

肥料としては、施肥するのは、秋、早春、開花後が適当です。春晩く開花期が近づいてからの施肥は良くありません。

この内、秋の施肥が最も重要で、この時に基肥を十分に施すことです。今一例を挙げますと、三〇坪当り堆肥三〇貫、油粕二貫、大豆粕二貫、木灰三貫位を施しており

ます。春開花後の肥料は、追肥として行います。この時は、硫安一貫、過石一貫、油粕一貫位が適当でしょう。落花したらその咲がらは切り捨て、特別な目的を除いては実を結ばせず、追肥を行って樹勢を回復させる事が肝心です。

冬開いは、前にのべた様に寒さそのものには大変強いのですから、格別にとり立ていう事もありませんが、多雪地帯では、雪による折損等も考えられますので、冬開いの必要があります。

病害としては、開花前に出て葉や枝、蕾を侵すポトリチス、開花前後に出る銹病等があります。病気に対しては、発芽前に石灰硫黄合剤十倍液位のもの、開花後に四斗式ボルドウ液を撒布すると共に、なるべく日当りを良くしてやるのが大切です。

この外注意しなければならぬことは、昔から良く牡丹は金気を非常に嫌うので、中耕或いは追肥の時に鋏で余り根元迄耕耘したり、深く鋤込まぬ事です。又株分けの時には鉄の刀物等で分けぬ様に注意して下さい。芍薬についても同様であつて、昔から芍薬の株分けには竹べらを使用してあります。

以上簡単ですが、栽培方法の概要について説明致しました。

植付けは秋が是好期です。何卒植付け時期のおくれぬ内にお買求めの上、お植え下さい。

現在花色も色々改良され種々の色があります。又牡丹では黄色牡丹も出現して更に一段とその色彩も豊かになつておりま

す。本秋取扱います品種と価格は、次の様になつております。是非一―二株でも庭の片隅にお植えになる事を誌上をかりておすめ致します。

一 牡丹

黄金牡丹

以下各接木一年上苗一株五〇〇円
○金 鮮明な黄金色に弁先紅色を帯びた万重、大輪の盛上咲。
○金 色は輝くような濃黄色、中心部は赤の絞りで品位高尚な万重巨大大輪。

普通種

以下各接木一年上苗一株一八〇円

- 雪 笹 緑したたる笹の葉に積つた新雪の如き、白色の八重大輪種。
- 白王獅子 新雪の如き純白色の八重大輪種。
- 玉芙蓉 淡桃色の早咲きの促成用の好適種。
- 豊 代 純紅色の千重咲の大家。
- 日 暮 恰かも夏の夕暮の真紅な落日の如き花色の牡丹。
- 日月錦 紫赤色の花瓣に白の絞りの入つた八重咲種
- 花大臣 純牡丹色の巨大輪。

二 芍薬

以下各一株一〇〇円

- ラ・チュエリッパ 花色は雪のように白い万重盛上り咲き。
- ラテンドール 半バラ咲きの純白の美しい花。
- ジュピテル 花色は純桃色、花は大きく千重盛上り咲き。
- プレニレスフバパー 花色は桜色の万重大輪種。
- ペルリオブ 花は鮮紅色の万重大輪咲。
- گرانデーフロラルブル 花色は濃紅色高性万重咲き。